saveMLAK プロジェクト
2021/1/12 発行

saveMLAK ニュースレター

第 67 号

国立大学図書館の開館動向調査は毎週継続中

saveMLAK では、COVID-19 の影響による公共図書館の動向調査が定期的に行われ、その結果は新聞記事等にも活用されていますが、国立大学図書館（全 86 大学）の動向についても、5 月以降毎週調査し、結果を公表しています。公共図書館の調査担当者はコアメンバー＋その都度募集なのに対し、こちらの方は今のところ 2 名で分担しています。調査開始のきっかけや、その後の経緯についてお話ししておきましょう。

国立大学図書館協会のメーリングリストで各館の COVID-19 対応に関する情報共有が開始されたのは 2 月 28 日(金)で、その日から早速、臨時休館や学外者利用休止、開館時間短縮などの報告が次々と送信されていきました。日々流れてくる情報を確認しながら、自館の対応を検討するための参考にしていましたが、一方で、これらの情報をフローのままにしておくのではなく、ストック、つまり記録に残していく必要があるのではないか、と直感的に思いました。そう感じたのは、東日本大震災の際に被災地・宮城にいて、図書館は記録を収集するとともに、自ら残すことも重要な役割であることを実感した経験があったからでした。

少しずつ各館の状況をまとめ始めた時に、この情報を必要としている人は他にもいるのではないか、そして、定期的に更新していくことで推移を追えるようにできるのではないか、と考えました。そして、4 月中旬に公共図書館の調査が CC0 で公表を開始されたのを知り、「あぁ、やはり同じことを考える人々がここにいる」と心強く思い、自分の調査も同じ場所で公開してもらおうと、準備を始めました。

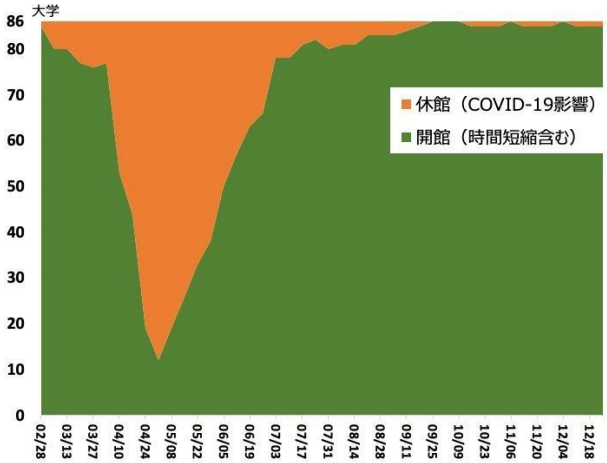
自分の作業の持続可能性を考慮して、平日は諦めて毎週土曜に確認することとし、Excel のシートで各週の情報を増やしていくこと、調査項目を決めて、データをある程度正規化してフィルタ機能で集計できるようにすることなどを決めました。そして、記入を開始したのが、緊急事態宣言まっただ中の 5 月 3 日(日)、saveMLAK サイト（※1）に国立大学図書館の項目を立ててもらい、ファイルの掲載を始めたのが 5 月 15 日(金)で、その後は毎週土曜か日曜に更新ファイルを掲載しています。

5 月 29 日(金)に NII のオンラインシンポジウム（※2）で国立大学図書館や自館の状況を報告する機会を得て、saveMLAK 調査についても紹介したのですが、その日の夜に 1 本のメッセージをいただきました。国立大学図書館に勤務されている箱田愛さんからの「よろしければ明日の調査を手伝わせていただけませんか」とのご連絡でした。それまで、毎週一人で作業する覚悟はできていたものの、有志が協働するというのが saveMLAK という組織の重要なコンセプトだと思っているので、単独で作業というのはいかがなものか、と感じていた矢先のたいへんありがたいお申し出でした。

その後は、Dropbox の共有フォルダにファイルを置き、86 大学を 2 人で半分ずつ調査しています。今週私が北・東を担当したら翌週は西・南というように交代することによって、週を跨いでのダブルチェックも自然に行えるようにしました。

※saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません

開館・休館数の推移（2/28～12/25）



このグラフのような開館状況だけでなく、開館時間、入館対象者、貸出・返却等の条件、利用休止施設・設備、感染防止対策など、各館のウェブサイトで確認できる限りの情報を記録しています。

大学図書館勤務の知人たちから「参考にさせてもらっている」との声が届き、「カレントアウェアネス-R」にも取り上げていただき（※3）、講演のご依頼もいくつかいただきました。なかでも興味深いレスポンスとして、このデータを基に開館状況の推移をきれいなグラフにし、ブログで公開してくださった方がいらっしゃったことです（※4）。これは、公共図書館調査に倣って、データを CC0 で公開した効果の一つで、オープンサイエンス時代を実感したエピソードでもありました。

2 学期を控えた 9 月末、7 か月ぶりに全 86 館が開館となりましたが、その後も学内感染者発生などの事情により、臨時休館する大学がいくつも出ています。また、開館しているといっても何らかの制限を設けている場合がほとんどですし、緊急事態宣言の再発令など、状況も刻一刻と変化していますので、まだまだこの定点観測を続けていかなければならないだろうと思っています。

【小陳左和子：東北大学附属図書館】

※1：saveMLAK . covid-19-survey
https://savemlak.jp/wiki/covid-19-survey

※2：国立情報学研究所. 第 9 回 4 月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム（2020. 5.29）
https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/#09

※3：国立国会図書館. カレントアウェアネス-R「saveMLAK、新型コロナウイルス感染症の影響による国立大学図書館の休館状況に関する調査結果を公開中」（2020.8.12） https://current.ndl.go.jp/node/41722

※4：やわらか図書館学. 国立大学図書館の開館状況の推移（2020.6.7-9.30）https://yawatosho.hateblo.jp/entry/2020/06/07/014725

COVID-19 調査について

1/7(木)に感染拡大の影響にて 1 都 3 県に緊急事態宣言が再発令されたことから、1/9(土)から 1/11(月・祝)に第 14 弾の調査を行い、調査結果を発表しました。ウェブサイトの公開情報を集約し全国の公共図書館・公民館図書室等、1723 館にわたって調査を行いました。

詳細はプレスリリースをご覧ください。
https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9/20210111

saveMLAK 会計
2020 年 12 月期会計報告

収入

12/14 寄付(株式会社カーリル)	¥290,750
12/14 グッズ売上(カーリル HappyShop 委託)	¥10,100
2020 年 12 月 20 日現在残高	¥1,024,437

【糸野泰輔／saveMLAK ファンド係】

2020 年 10 月～11 月の出来事と今後の予定

12 月 20 日	第 117 回 Meetup を開催
1 月 18 日	第 118 回 Meetup を開催予定
2 月 22 日	第 119 回 Meetup を開催予定

※saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません

編集後記

新しい年を迎えました。昨年は突然の大変な状況の中、日々を踏ん張って乗り切っていらっしゃった方も多いと思います。今年が希望の持てる年であるよう願います。

国立大学図書館調査は私自身も勤務していることもあり、関心を持っていたことから調査に参加いたしました。首都圏に在住し緊急事態宣言の発令や在宅勤務、感染防止のための生活を送る中、ともすれば視野が狭くなりがちなのを、毎週の調査にて全国の状況を知ることで新たな視点や気づきが得られたように思います。また、データをわかりやすくグラフ化してくださったことは調査の広がりを感じ嬉しく思いました。まだまだ調査は続いていきますので、これからでもご参加いただける方や、また取り組みが公立大学や私立大学の範囲にも広がっていけばなあと期待しています。

今年も変わらず身近なところからこつこつと、できることをできるだけ取り組んでいければと思います。どうぞ今年もよろしくお願いいたします。

【編集担当：箱田愛】

編集発行：saveMLAK プロジェクト
発行日：2021 年 1 月 12 日（火）（第 67 号）
発行所：神奈川県横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル
さくら WORKS<関内>407
アカデミック・リソース・ガイド株式会社内
saveMLAK プロジェクト
E-mail：pr@savemlak.jp
URL：https://savemlak.jp/

※saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません